

平成23年7月25日

東日本大震災における広島大学の対応について

第18回学長定例記者会見（平成23年6月28日）以降、広島大学が対応した内容を下記のとおり報告いたします。

本学は、地震により被災された皆様に対して、引き続き、できる限りの支援を行う所存です。

記

1. 医療活動支援関係について

(1) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動について

広島大学は西日本ブロックの「三次被ばく医療機関」として、「広島大学緊急被ばく医療推進センター」、「広島大学病院」と「原爆放射線医科学研究所」が、東日本ブロックの「三次被ばく医療機関」である「放射線医学総合研究所」と連携し、被ばく医療に特化した活動を行っています。

① 緊急被ばく医療チームを編成し、福島県へ連続派遣。

3月12日（土）第1班を派遣し、7月25日（月）現在までに32班延べ941名を派遣しています。

基本チーム構成は、医師2名（うち1名は救急医）、診療放射線技師1名、看護師1名、事務職員2名の計6名で、第13班（4月28日出発）以降は一旦、3名体制としましたが、第19班（5月20日出発）から3～11名体制とし、一時帰宅に伴うスクリーニングにも対応しています。

② 「救急医療室」の設置

7月1日（金）から、福島第一原子力発電所に「救急医療室」を設置し、救急医を常駐（48時間交替）させることとなりました。

広島大学緊急被ばく医療推進センターは事務局として、放射線医学総合研究所と連携し、全国の国立大学などの協力を得て、医師などの派遣計画の策定や医療備品の整備などを行います。

広島大学からは、救急医3人が対応します。

③ 神谷緊急被ばく医療対策委員会委員長は、「原子力災害における放射線の健康影響」などの講演を、これまで（7月25日（月）現在）に福島県における講演（31回、参加者約9,200人）（神谷委員長代理（細井教授）実施分（2回、約1,100人）を含む。）福島県以外での講演（8回、参加者約1,400人）を行いました。

④ 神谷緊急被ばく医療対策委員会委員長（原爆放射線医科学研究所長）が、平成23年7月15日付けで、福島県立医科大学副学長（非常勤）に就任されました。任期は平成24年3月31日まで（更新の可能性あり）。

【本件に関するお問い合わせ先】
財務・総務室 総務グループリーダー 山根
TEL：082-424-6011

⑤ 広島大学と福島大学との連携に関する協定について
東京電力福島第一原子力発電所事故を契機に締結するもので、教育研究や学術研究、教職員の相互交流などの連携を通じて、両大学における教育研究の一層の進展を目指すとともに、放射線の健康や社会に与える影響に関して、創造的・先駆的な研究拠点の形成を協力して推進します。
なお、調印式は、7月28日（木）16時から福島ビューホテルで行います。

【本件に関するお問い合わせ先】
社会連携・広報・情報室社会連携グループリーダー 村上
TEL：082-424-6031

東日本大震災に係る広島大学の対応

※ 更新部分は下線表示

I 支援中又は支援済みの事項

1. 医療活動支援関係

(1) DMAT（災害派遣医療チーム）

3月11日（金）～3月15日（火） 医師2名，看護師2名，薬剤師1名を派遣

(2) 緊急被ばく医療対策関係

※ 広島大学は，文部科学省から西日本ブロック地域の三次被ばく医療機関として選定されている。

3月12日（土）に緊急被ばく対策委員会（委員長：緊急被ばく医療推進センター長）を設置し，同日から「緊急被ばく医療チーム」の派遣を開始

○ 3月12日（土）～4月28日（木） … 12班を派遣

・ 班構成 … 6～8人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）

・ 派遣期間 … 5～6日

☆ 4月18日（月）に福島大学職員OB（1人）を支援要員として採用

○ 4月28日（木）～5月20日（金） … 6班を派遣

・ 班構成 … 2～4人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）

・ 派遣期間 … 5～6日

○ 5月20日（金）～派遣を継続中

・ 班構成 … 3～11人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）

・ 派遣期間 … 4～8日（一時帰宅に伴うスクリーニング対応を含む。）

※ 3月12日（土）～7月25日（月）までの延べ派遣人数医 師 … 344 人放射線技師等 … 225 人看 護 師 … 141 人事 務 職 員 … 231 人合 計 941 人※ 「救急医療室」の設置○ 7月1日（金）から，福島第一原発へ「救急医療室」を設置し，救急医を常駐（48時間交替）させることとなった。○ 広島大学緊急被ばく医療推進センターは事務局として，放射線医学総合研究所と連携，全国の国立大学などの協力を得て，医師や看護師，放射線管理の専門家の派遣計画の策定や医療備品の整備などを担う。○ 本学からは，救急医3人が対応予定

(3) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動内容

(上記の医療チームの活動内容を含む)

- ① 福島県オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）や初期スクリーニング拠点において患者のへり搬送，診断，除染を実施

- ② 患者搬送ルートの概要決定（放射線医学総合研究所と協議）
 - ③ 汚染をスクリーニングする体制整備，スクリーニング法の指導並びに多数の市民及び小児甲状腺のスクリーニング実施 ⇒ 住民の不安軽減や「安心・安全」を提供
 - ④ 福島県立医科大学の医師，看護師等に対する緊急被ばく医療セミナー実施
⇒ 医療従事者が安心して被ばく患者を受け入れられる環境を整備
 - ⑤ 現地にワゴン車2台投入による緊急被ばく医療活動の機動力確保
 - ⑥ 緊急被ばく医療活動を支援する備品や食品，水等を寄附（車1台分）
 - ⑦ 広島大学を代表して，神谷緊急被ばく対策委員長が次のとおり委嘱を受けている。
 - ・ 平成23年3月～ 福島県立医科大学理事長付特命教授
 - ・ 平成23年4月～ 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー
 - ・ 平成23年4月～ 内閣官房政策調査員
 - ・ 平成23年7月15日～ 福島県立医科大学副学長
 - ⑧ 放射線影響研究機関協議会に神谷緊急被ばく対策委員会委員長出席
 - ⑨ 広島大学と福島県立医科大学との連携に関する協定（教育研究診療の進展，被ばく医療・放射線影響に係る研究拠点の形成等）締結（浅原広島大学長出席）
 - ⑩ 活動拠点を福島県オフサイトセンター及びジェイビレッジから福島県立医科大学に移転（緊急被ばく医療チーム編成を縮小；4月28日）
 - ⑪ 福島第一原発から20km以内への住民の一時帰宅に伴う放射線測定要員に対する指導的役割を担う要員派遣
 - ⑫ 神谷緊急被ばく対策委員会委員長による「原子力災害における放射線の健康影響」等の講演（7月25日（月）現在）
 - 福島県における講演（31回，約9,200人）
（委員長代理（細井教授）実施分（2回，約1,100人）を含む。）
 - 福島県以外での講演（8回，約1,400人）
- (4) 広島大学病院での被災者医療支援関係
- ① サーベイ検査
これまで，34人に対して実施（広島県警察機動隊の帰還隊員の検査についても，警察学校において別途実施）
- (5) 他機関等の依頼による派遣等
- ① H I C A R E放射線量測定チーム（広島県）
 - 3月16日（水）～22日（火）福島県においてスクリーニング検査（技術センター 技術専門職員 参加）
 - ② 歯科医師の派遣（警察庁）
 - 4月8日（金）～14日（木）歯科医師3人が宮城県内において遺体身元確認（検視）に従事（医歯薬学総合研究科：准教授，特任助教，病院：助教）
 - ③ 京都大学原子炉実験所（広島市受託研究費）
 - 3月28日（月）～30日（水）栃木県・福島県の各地において緩急放射線モニタリングを実施（工学研究院：准教授）
 - ④ 核物理研究者チーム（大阪大学核物理研究センターが代表）
 - 3月25日（金）～30日（水）福島県においてスクリーニング検査等（原爆放射線医科学研究所：教授，助教）

- ⑤ 東北関東大震災復興支援特別委員会（公益社団法人日本心理学会）
 - 当該委員会の委員への就任（任期 4/9～翌年 3/31；教育学研究科：准教授 2 人）
- ⑥ 宮城派遣一次隊ボランティア派遣（社団法人日本理学療法士協会）
 - 4 月 1 6 日（土）～2 3 日（土）生活機能対応専門職チームとして生活不活発病に対するアプローチなど（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）
- ⑦ 広島医療チーム（広島県）
 - 4 月 2 4 日（日）～4 月 3 0 日（土）福島県須賀川市の避難所等において診療活動を実施（医歯薬学総合研究科：特任助教，病院：講師，助教，看護師 2 人，事務）
- ⑧ 薬剤師派遣（日本病院薬剤師会）
 - 4 月 4 日（月）～4 月 1 1 日（月）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
 - 4 月 2 4 日（日）～5 月 1 日（日）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
 - 5 月 1 日（日）～5 月 7 日（土）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
- ⑨ 医療スタッフのボランティア派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）
 - 宮城県石巻市（病院及び避難所）へ看護ケア担当者（教員，院生，研究補助者）を順次派遣。（6 月 3 日（金）～9 月末日）
 - ・ 6 月 3 日（金）～5 日（日）（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）
- ⑩ 福島第一原発の事故が健康に与える影響（英語版）資料提供（国立大学協会）
 - 留学生・外国人研究者向け講演資料を国大協に提供。（特に，関東地域大学の留学生への説明に使用。）（原爆放射線医科学研究所：稲葉教授（緊急被ばく医療対策委員会委員）作成）
- ⑪ 震災・津波復興のための海外調査員派遣（水産庁）
 - 5 月 2 9 日（日）～6 月 2 日（木）タイ王国において，震災・津波復興のための調査を実施（生物圏科学研究科：教授）
- ⑫ 津波被災マップ作成チーム（日本地理学会）
 - チームの一員として，「東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ」を作成した。3 月 2 9 日（火）以降，順次同学会等 HP（日本語，英語，電子国土 Web システム及び e コミマップの各ページ）で公開（文学研究科：准教授 [学生も協力]）

2. 災害救援物資の支援関係

- ① 3 月 1 9 日（土）災害救援物資（食料品，医薬品，携帯カイロ，ストーブ，カセットコンロ，乾電池，生活雑貨など 11t トラック 2 台分）を発送（3 月 2 2 日（火）東北大学及び福島大学へ到着）
- ② 4 月 1 4 日（木）東北大学歯学部から依頼のあった救援物資（義歯洗浄剤 300 個，義歯ケース 300 個）を発送
- ③ 4 月 2 6 日（火）岩手県大槌町の教育委員会から支援要請を受け，救援物資（箸，ちりとり各 3 0）を発送
- ④ 5 月 3 1 日（火）岩手大学から依頼のあった情報機器（ノートパソコン 1 7 台，プリンタ 6 台，スキャナ 2 台，ネットワーク機器 5 台）を岩手大学地域防災研究センターへ発送
- ⑤ 6 月 1 5 日（水）宮城県石巻北高等学校からの支援要請を受け，救援物資（電気スタ

ンド6台、鉛筆削り1台)を発送

3. 被災者受入対応関係

- ① 法務研究科において東北学院大学の法科大学院生(3年)1人を受入
 受入期間 … 4月5日～5月6日
 宿泊施設 … 病院レジデントハウスを提供(無償)
- ② 国際協力研究科において東北大学大学院の学振特別研究員(本学(国際協力研究科)で学位取得)1人を受入
 受入期間 … 3月21日～4月22日
 宿泊施設 … 山中会館を提供(無償)
- ③ 生物生産学部において北里大学海洋生命科学部の学生(4年)1人を受入
 受入期間 … 6月1日～平成24年3月31日(予定)
 宿泊施設 … 池の上学生宿舎を提供(無償)

4. 放射線量等測定支援関係

- ① 広島大学東広島キャンパス内における大気中の放射性物質の測定
 - 工学研究院(静間 教授)が、3月20日(日)から測定を実施・公表
 - 4月27日以降(5月8日まで)放射性物質が検出されていないため5月9日から週1回の測定
- ② 文部科学省の依頼により、ポケット線量計を屋外に設置、4月12日(火)から積算線量を毎日14時に測定・報告(自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門)

5. 義援金募金活動

- ① 「いろは」(職員向け情報ポータルサイト)、「もみじ」(学生向け情報ポータルサイト)及びHPに協力要請記事を掲示、各室・部局等に対して協力を要請(3月15日)
- ② 3月中に寄せられた義援金
 15,092,249円(4月8日 日本赤十字社広島県支部へ振込)
- ③ 4月中に寄せられた義援金
 4,048,112円(5月16日 日本赤十字社広島県支部へ振込)
- ④ 5月30日(月)午後
 義援金(合計 19,140,361円)の「目録」を日本赤十字社広島県支部へ贈呈
 なお、義援金活動は8月31日まで行うこととした

6. 教職員・学生の安否確認

(1) 安否確認

- 教職員及び対象学生553人全員の無事を確認(3月23日)

(2) 家屋等の被災状況確認

- 在学生20人、新入生5人、教職員4人(4月1日現在)
 (在学生のうち1人(3月卒業)は、新入生(大学院生)にも重複カウント)
- 主たる家計支持者の自宅が全半壊した者(5月20日調べ)

- 学部生 5 人（うち新入生 2 人），大学院生 2 人
- 主たる家計支持者が失業又は就業見込みが立たない者（5月20日調べ）
大学院生 1 人

II 支援に向けて準備済みの事項

1. 医療活動支援関係

(1) 広島大学病院での被災者医療支援関係

- ① 除染設備の仮設配管及び貯留設備の整備（3月17日完了）
- ② 広島県内 6 病院の連携による被ばく患者の受入れ体制の構築
（広島大学は、重症 4 床，中症 4 床を確保し，未除染患者も受入れ可能）

2. 被災者受入対応関係

(1) 被災者用宿舎の提供準備

- ① 文部科学省からの依頼により看護師宿舎（8室）及びレジデントハウス（19室）を提示

(2) 被災地の国立大学在学中の外国人留学生の一時待避受入れ準備

- ① 国立大学法人理学部長会議構成大学（32大学）において対応が検討され，理学研究科で受入れ支援を行うこととした。
- ② 受入人数：10名（山中会館に2人分確保。他は民間等を予定）
- ③ 受入期間：3月22日（火）～3月31日（木）

(3) 東北・関東地区の大学に在学中の学生及び入学予定者に対する本学図書館の利用便宜

(4) 被災地の学生・研究者受入体制

- ① 理学研究科附属臨海実験所において被害を受けた各大学の臨海実験所等関係者に対する宿泊施設（無償），実験室（実習のある8，9月を除く。）を提供する旨をマリンバイオ共同推進機構（JAMBIO）のHPへ掲載
- ② 文部科学省（学術機関課）から照会に対して放射光科学研究センターにおいて共同利用・共同研究の受入可能を回答
- ③ すべての学部・研究科において被災地域の学生に対する講義の履修，聴講等及び宿泊施設を無償で受入・提供する旨をHPへ掲載
- ④ 被災地域の大学のみならず，計画停電等による影響が懸念される関東以北の大学等の研究者に対して研究スペース・研究装置等の利用等可能な支援を行う旨をHPへ掲載

(5) 情報機器利用提供

被災地域の大学の学生（入学予定者を含む）・教職員に対する広島大学教育用情報端末及びネットワークの利用便宜をHPへ掲載中

3. 技術者等の派遣関係

(1) 応急危険度判定士の派遣準備

文部科学省からの依頼により，被災文教施設応急危険度判定士の資格を有する職員 3

人の派遣を準備。

(2) 技術職員の派遣依頼

全国施設担当部課長会（会長：東京大学長）からの依頼により，被災大学等への技術職員の派遣を準備。

4. 放射線量等測定支援関係

(1) 放射能機能測定可能施設の情報提供

- ① 文部科学省へ「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」（H14.5.9 厚労省）に示すNa1（TI）シンチレーションサーベイメータの本学の保有状況（8台）を情報提供
- ② 「緊急時における食品の放射能マニュアル」に示す6種類の分析のうち3種類の分析が実施可能である旨を回答（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）

(2) 空間放射線量率調査の実施地点拡大に伴う協力

- ① 文部科学省からの「都道府県別環境放射能水準調査」の放射線量率調査実施地点の拡大に伴う協力依頼に関し，自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門において実施可能である旨を回答

5. 被災学生に対する支援関係

平成23年3月14日（月）に経済的な相談に応じる窓口及び学生ボランティア登録窓口を開設するとともに，池の上学生宿舎（男女各5室，計10室）を確保

※ 「もみじ」（学生向け情報ポータルサイト）及びHPに掲載

III 支援体制・広報等

1. 危機管理・災害対策本部

平成23年3月14日（月）9：00設置（学長（本部長），理事，副学長 ほか）

2. ホームページによる情報発信

- (1) 3月15日（火）本学ホームページのトップページに「東北地方太平洋沖地震に関する緊急のお知らせ」（現在：東日本大震災に関するお知らせ）をアップし，学生，留学生，新生，保護者等への情報，放射線に関する基礎的な情報等，本学が支援に向けて準備済みの事項等の情報を発信。

※ 英語及び一部中国語にも対応

- (2) 4月19日（火）から，広島大学のウェブサイトとは独立した震災支援用の無償クラウドサービス（ポータルサイト）を利用して，PCや携帯電話から直接アクセスができる「放射能対策基本情報ポータルサイト」を立ち上げ，英語及び中国語にも対応した情報を発信している。

3. その他

留学生や外国人研究者及びその家族に対する放射能汚染に関する正確な情報伝達のため，東広島地区及び広島地区において英語による講演会を実施

- 第1回 東広島キャンパス（サタケメモリアルホール）

- 2011年4月19日（火） 18時～午後19時30分
- 第2回 霞キャンパス（医学部第1講義室）
2011年4月20日（水） 18時～午後19時30分
 - 第3回 東広島キャンパス（総合科学研究科L102講義室）
2011年4月22日（金） 18時～午後19時30分
- ※ 3日間で、延べ約80人の留学生や外国人研究者が参加